

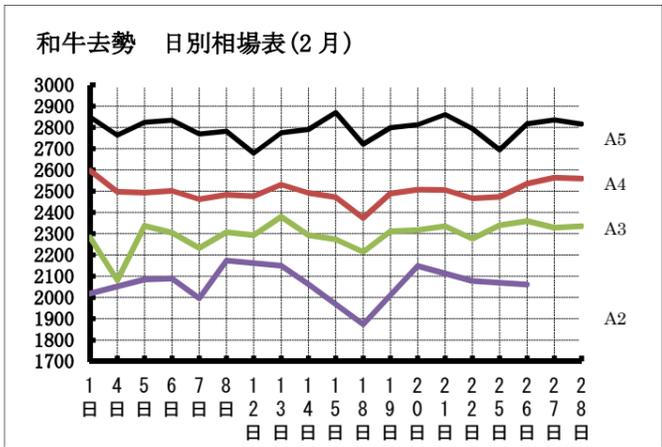
月刊しばうら

2019年3月号

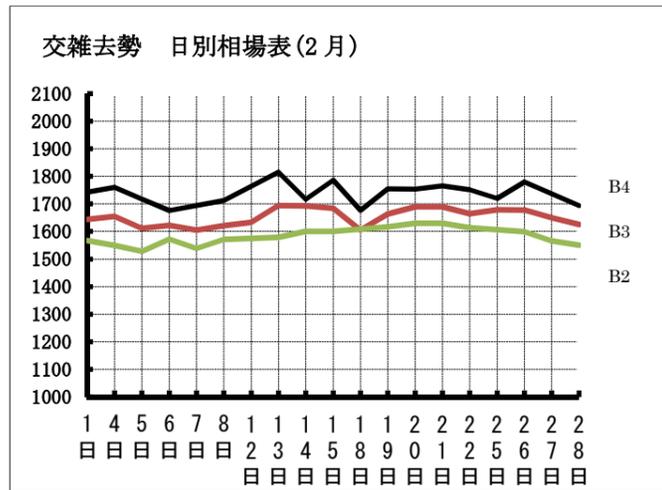
大動物事業部

<2月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 21 円安の 2,807 円（前年同月比 41 円高）、A4 が同 10 円安の 2,503 円（同 95 円高）、A3 が同 20 円安の 2,305 円（同 193 円高）、A2 が同 16 円高の 2,072 円（同 204 円高）となり、交雑牛去勢は B4 が 19 円高の 1,751 円（同 148 円高）、B3 が同 22 円高の 1,656 円（同 231 円高）、B2 が同 79 円高の 1,580 円（同 349 円高）となった。末端需要の停滞を受けながらも、全国的な出荷頭数の少なさなどから和牛はもちあい。交雑牛は堅調な相場を維持している。



A5	2,807 円	（前年同月比 101.5%）	（前月比 99.3%）
A4	2,503 円	（ " 103.9%）	（ " 99.6%）
A3	2,305 円	（ " 109.1%）	（ " 99.1%）
A2	2,072 円	（ " 110.9%）	（ " 100.8%）



B4	1,751 円	（前年同月比 109.2%）	（前月比 101.1%）
B3	1,656 円	（ " 116.2%）	（ " 101.3%）
B2	1,580 円	（ " 128.4%）	（ " 103.9%）

乳牛去勢（月平均）

B3 上場なし
B2 973 円（前年同月比 97.2%）（前月比 98.9%）

<3月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績による2019年1月の輸入量は前年同月比 41.9%増の 5 万 574 t となった。チルドは 6.1%増の 1 万 9,677 t で、不需要期にもかかわらず 2 万 t 近くを維持し、数字的には少ないものの TPP11 の影響で NZ、カナダ、メキシコ産が大きく増加した。フローズンは 80.9%増と 3 万 t を超す輸入量となり、年度累計数量は 30.3 万 t。今年度の SG 基準数量 (35.3 万 t) に対して残り 2 ヶ月分で 4.9 万 t 強となっている。農畜産業振興機構の予測による 3 月の牛肉輸入数量は、前年比 4.4%減の 4 万 2,900t と予測。チルドは、1.1%減の 2 万 2,100t。フローズンは、7.2%減の 2 万 800 t と前年同月に比べ米国産の大幅な増加が見込まれるものの、豪州産の大幅な減少により、かなり程度下回ると見込んでいる。

		1月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,955	7,824	114.5%
	米国	9,395	9,834	95.5%
	その他	1,327	890	149.1%
	合計	19,677	18,548	106.1%
フローズン	豪州	17,782	11,217	158.5%
	米国	8,152	4,634	175.9%
	その他	4,963	1,232	81.8%
	合計	30,897	17,083	180.9%

単位：t 出典：食肉速報

<3月の全国出荷頭数予測>

農林水産省が公表した1~12月の食肉流通統計を基に、平成30年次の牛の全国と畜頭数は105万6260頭（前年比1.0%増）と近年、減少傾向だったが増加に転じた。品種別では、和牛が45万2962頭（3.0%増）、交雑牛は24万9050頭（3.9%増）、乳牛は33万8675頭（3.3%減）で乳牛以外は増加という結果となり、国、民間ともに取り組んできた増加対策が奏功し前年を上回る結果となっている。一方、枝肉生産数量も47万5346t（1.3%増）でこちらも増加に転じている。

農畜産業振興機構による3月の出荷予測頭数は、全体で前年比3.1%減の8万1,500頭と予測している。品種別にみると和牛は1.2%減の3万4,200頭、交雑種は2.8%減の1万9,300頭、乳用種は5.6%減の2万6,800頭としている。

東京食肉市場の3月のと畜頭数は7,000頭を予定しています。

<3月の牛枝肉相場見通し>

今月も前月同様に出荷頭数は少なく、末端需要はそれほど見込めない状況にはあるが、春先の催事需要の手当て買いなどで枝肉相場はいくらか強もちあいの相場展開が予測される。ただし、選別の目は強まり、特に和牛は同等級間でも個体ごとの価格差や枝肉仕上がり状況によって価格はまちまちか。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,750~2,850	B4	1,700~1,750
A4	2,500~2,550	B3	1,600~1,650
A3	2,250~2,350	B2	1,500~1,550
A2	2,000~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	900~1,000		

小動物事業部

1月の全国と畜頭数は、前年同月比1.9%増の142万2,786頭と前年より増加した。また、1月の豚肉通関数量は、チルドが3万1,459t（前年同月比2.3%減）であったが、フローズンは日欧EPA発行を前に主要国のデンマーク、スペインからの輸入量が抑制され6万1,779t（同比16.9%減）と大きく下回った。しかし、全体的に末端需要が弱く荷動きは鈍い状況であった。国産物の期末在庫の消化も進んでいなく19,394t（同比14.4%増）となった。

月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
1	77,568	74,247	16,549	160,209	77,928	67,918
2	71,805	67,889	17,111	164,705	71,194	63,393
3	78,201	77,785	20,474	160,500	74,791	81,990
4	75,496	80,144	18,753	159,213	77,128	81,431
5	76,152	80,227	19,021	161,265	75,842	78,175
6	69,573	76,677	17,434	161,087	71,104	76,855
7	68,709	78,084	17,332	158,705	68,762	80,466
8	70,135	79,654	18,182	157,848	69,223	80,511
9	67,675	68,972	18,048	149,511	67,772	77,309
10	82,053	83,979	18,178	147,729	81,863	85,761
11	82,254	83,346	18,435	144,982	81,925	86,093
12	79,338	73,146	19,394	140,967	78,307	77,161
比	99.7	88.0	114.4	91.6	100.2	92.7

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：トン、%

国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	15,898	99.7%	デンマーク	3,581	41.0
カナダ	14,617	95.4%	スペイン	5,185	57.8
メキシコ	941	101.3%	メキシコ	6,672	109.5
			アメリカ	4,406	97.5
			カナダ	3,221	129.6
合計	31,459	97.7%		30,320	82.0

<2月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	65,200	472	426	874
4日	67,700	460	435	845
5日	69,300	512	474	895
6日	65,400	596	542	639
7日	69,300	512	482	856
8日	67,600	481	448	1,065
平均	67,417/日			829/日

2月に入り、末端消費は鈍い状況であったが、出荷頭数がやや減少傾向となったことで、枝肉相場は強含みで推移した。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	76,500	481	455	903
13日	70,100	499	465	1,016
14日	71,100	497	464	888
15日	70,200	476	434	991
18日	67,900	485	449	854
19日	67,500	487	428	879
20日	66,800	501	453	678
平均	70,014/日			887/日

連休明けということもあって出荷頭数は多く、相場は落ち着いている。引き続きバラ、スソ物は堅調な動きとなったがロースやカタロースの引き合いは弱く、ヒレも一時期に比べると鈍っている状況となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	68,400	484	441	861
22日	67,700	497	449	943
25日	65,700	465	438	771
26日	68,100	470	450	813
27日	67,800	481	446	739
28日	68,700	491	442	760
平均	67,733/日			815/日

2月の下旬は安定したと畜頭数続いたが、全体的に末端需要は端境期で引き合いが弱く持合いの相場展開となった。また、昨年からの順調に動いていたバラの荷動きが鈍化する状況となった。

<3月の豚枝肉相場見通し>

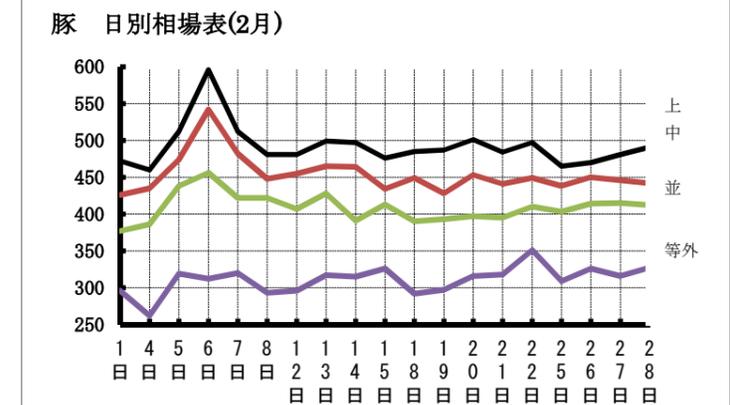
農林水産省による3月の全国と畜頭数予測では、前年をわずかに下回る137万5,000頭と予測している。当市場の3月の集荷予定頭数は1万6,500頭、一日当たりでは約825頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると3月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万4,600t（同95.9%）、内訳はチルドが3万3,600t（同98.5%）、フローズンは4万1,000t（同93.9%）と年度末ということもあり減少の予測である。

今年に入り、関東地方の産地ではPEDの発生が拡大しており、今後の出荷頭数に影響がありそうだ。また、豚コレラの発生により、一部量販店では国産物から輸入物へシフトする動きなどもみられるようになってきた。

3月は日に日に気温は上昇傾向となり、花見などの行楽需要の増加によってロースやヒレなどの引き合いが強まることで相場は強含みの展開となる可能性もありそうだ。

このことから当市場の3月加重平均は上物価格で470円前後、中物価格は450円前後と予測する。



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>